

2024. 4. 1

ESG 地域金融促進事業における「共通 KPI」を策定

静岡銀行（頭取 八木 稔）では、環境省主催の「令和 5 年度 ESG 地域金融促進事業」に採択され、「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」に取り組むお客さまに検討いただく目標指標として、「企業価値向上と社会価値創造の両立につながる共通 KPI」を策定しましたので、その概要をご案内します。

今後も、ESG 金融の推進を通じて、地域やお客さまの課題解決に向けた伴走支援に取り組み、お客さまの企業価値向上と地域の持続的な成長に貢献してまいります。

< 「共通 KPI」 について >

- 共通 KPI とは「静岡県総合計画指標」「しずおかフィナンシャルグループのインパクト指標」「国際的なサステナビリティ指標」から共通項を見出し、自治体・お客さま・静岡銀行が「持続可能な地域」をとともに目指し、同じ方向に向かって取り組む指標を指します。
- 具体的には、全業種で適用が可能となる「業種横断 KPI」のほか、「製造業」「医療・福祉」「建設」「産業廃棄」のように業種によって適用が可能となる「業種別 KPI」を策定しました。
- 共通 KPI の策定を検討するにあたり、6 つの地域事業者にてヒアリングをご協力いただきました。

<協力企業> 株式会社遠州米穀、社会医療法人志仁会、静和エンバイロメント株式会社
常盤工業株式会社、株式会社ふもとつばら、株式会社明光電化工業所



※詳細は環境省地域金融実践ガイドならびに事例集をご参照ください

URL: https://www.env.go.jp/press/press_02984.html

企業価値向上と社会価値創造の両立に繋がる共通KPIの策定

-事例03- 静岡銀行

背景・目的

- 昨年度事業にて、ボトムアップアプローチを用いて、過去の「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」(PIF)における全KPIを整理し、共通化できそうなKPIの検証を実施した結果、主にネガティブインパクトについては、一定の共通性が見られることが判明した。
- しずおかフィナンシャルグループ(SFG)及び静岡県の課題解決に資する取組について事業者に気付きを与え、地域に創出するインパクトを効率的かつ効果的に可視化・測定・創出することを目指し、今年度事業では、ポジティブインパクトを含めた網羅感のある共通指標(共通KPI)を抽出すべく、トップダウンアプローチにより検討を行った。



静岡銀行

令和5年度

トップダウン
アプローチ

- 国際的なサステナ指標や地域課題に関する指標を基に、中小事業者に応用可能なKPIを抽出
→**ポジティブインパクトを抽出し、一定程度の網羅性を確保**

共通KPI

令和4年度

ボトムアップ
アプローチ

- 過去のPIFにおける全KPIを整理し、共通化できそうなKPIを抽出
→**ポジティブインパクトの共通性が見出しづらい、網羅感が不足する**という点が課題

取組のPoint

POINT 1

ポジティブ
インパクト

- ✓ ネガティブインパクトのみならず、企業の成長や利益創出に繋がるポジティブインパクトに関する共通KPIも策定。
- ✓ 昨年度事業にて、ポジティブインパクトに関する共通KPIは企業の個性が高いことが判明したため、事業者ヒアリングを通じて、共通指標化の可能性を丁寧に確認した。

POINT 2

トップダウン
アプローチ

- ✓ 今年度事業においては、昨年度事業の検討成果をベースとしつつも、国際的なサステナビリティ関連指標や、静岡県の地域課題に紐づく指標を基にしたトップダウンアプローチによって共通KPIを特定した。

POINT 3

事業性評価
との連携

- ✓ 静岡銀行内で、事業性評価においてもPIFにおいても共通KPI達成に向けた支援が実施できると、地域社会に与えるインパクトを統一的に把握・管理することができるため、共通KPI策定後に、事業性評価との連携方法についても整理・検討した。

ESG地域金融に取り組んだ経緯・目指すべき地域の将来像

担当者コメント



静岡銀行
コーポレートサポート部
法人ファイナンスグループ長
新村 剛規 氏



静岡銀行
コーポレートサポート部
法人ファイナンスグループ課長
山崎 剛 氏

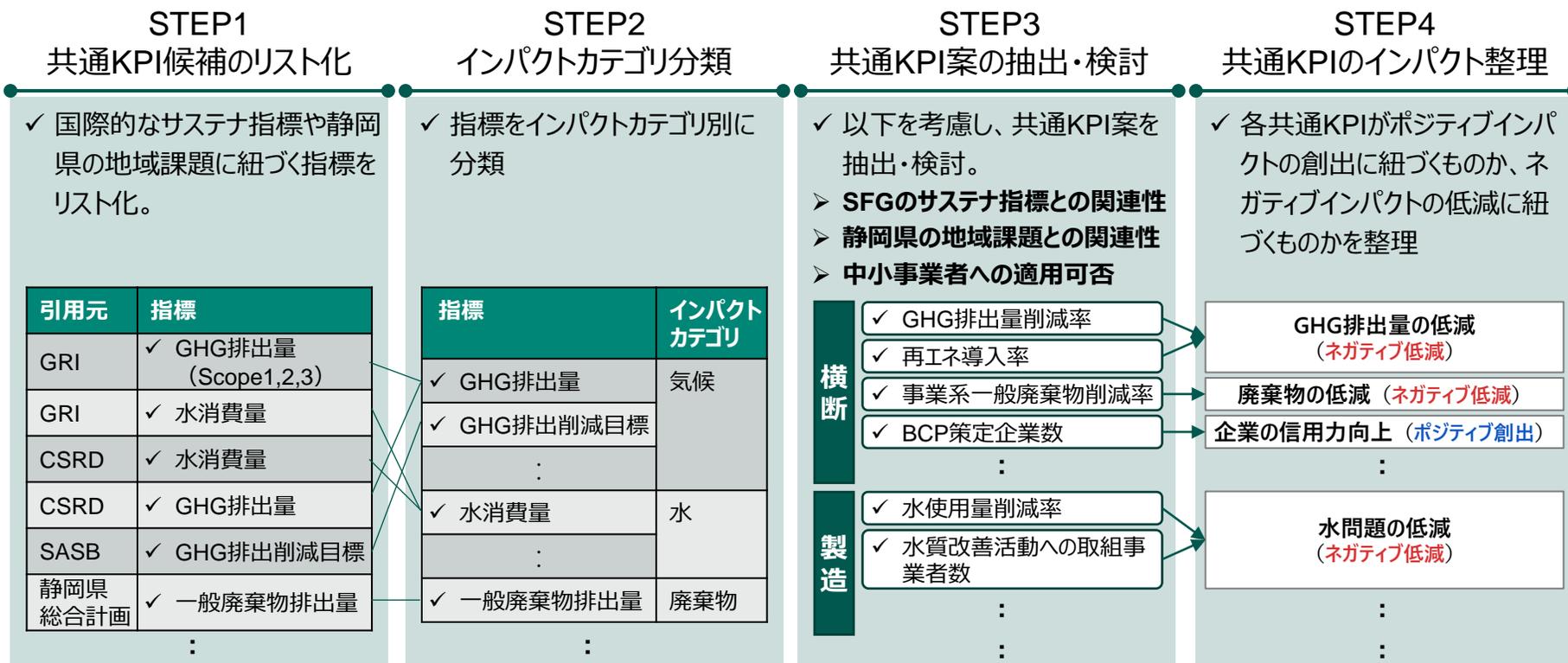
- しずおかフィナンシャルグループの第1次中期経営計画では、2030年度に目指す状態として「すべてのステークホルダーがサステナブルかつ幸福度が高まっている状態」と定めています。この目指す状態を測る尺度として設定した「サステナビリティ指標」においても、「経済価値の追求」ととどまらず、地域に新たな価値を創造する取組を通して自らの経済価値、ひいては企業価値を向上させる考え方を基本に据えています。
- このような中、地域の持続的な成長を持続させていくためには、お取引先を環境や社会的責任を考慮する経営、「サステナビリティ経営」にいざなう必要があると考え、静岡銀行では2021年よりポジティブ・インパクト・ファイナンス（PIF）の取り扱いを開始しました。
- PIFは実行しただけにとどまらず、設定したKPIの達成に向けた伴走支援の実施、更にはKPI達成によって地域に創出されるインパクトを最大化することが重要であると考え、2022年度の「ESG地域金融促進事業」にて「地域におけるインパクト可視化及びインパクト測定・マネジメント（IMM）体制の確立」に取り組みました。今年度においては「地域の課題」「SFGのインパクト指標」「国際的なサステナビリティ指標」から共通項を見出し、自治体・お取引先・金融機関が地域課題の解決という同じ方向に向かって取り組む指標となる「共通KPI」の策定に取り組んできました。
- 本事業では、環境省・野村総合研究所（事務局）、静岡経済研究所や有識者委員と協議を重ねることで自行単体では手が付けられなかった事象に挑戦ができるとともに、新たな知見を得ることができました。先行きが不確かで課題が複雑化するVUCA時代においては、今まで以上に「産官民金」が連携し、経済を支え、社会を構築していく必要があり、本事業がそのきっかけになると感じています。

ESG金融の実践内容

実践の流れ	実践のポイント	概要
<p>国際指標・地域課題の調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国際的なサステナビリティ指標を洗い出し ✓ 自治体の行動計画より地域課題に関する指標を抽出 	<ul style="list-style-type: none"> • ESG評価機関の評価指標や、国際的な開示枠組みにおける指標を洗い出し • 静岡県の目標や業種別の県内の企業課題を洗い出し
<p>共通KPI策定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ トップダウンアプローチでの検討 ✓ インパクトとの関連性の整理 	<ul style="list-style-type: none"> • 静岡銀行のPIF実行先や静岡銀行の貸出残高、県内総生産などを踏まえ、業種別共通KPIの対象業種を検討 • 洗い出した国際指標や地域課題に紐づく指標を基に、適用可能性が高い指標を抽出・整理
<p>苦労した点：中小事業者への適用可否の考慮（→詳細はP32）</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 国際的なサステナ指標や地域課題に関する指標を中小事業者にKPIとして適用できるのか？という点の見極めに難しさを感じた 		
<p>共通KPIのブラッシュアップ（事業者ヒアリング）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業内容を踏まえて適用可能性を把握 	<ul style="list-style-type: none"> • 共通KPI案について、事業者へ適用可能性に関するヒアリングを実施 • ヒアリング結果を基に、共通KPI案のブラッシュアップを実施
<p>支援策検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 共通KPI別に既存の支援策を整理 	<ul style="list-style-type: none"> • 共通KPIの指標別に、企業の対応策と、その対応への既存の支援メニューを整理 • 企業の課題感が大きく、かつ既存の支援メニューが不足している領域について、今後の支援の方向性を検討
<p>事業性評価との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 既存の事業性評価と共通KPIの共通点を整理 	<ul style="list-style-type: none"> • 既存の事業性評価シートに、共通KPIの要素を組み込む形で事業性評価シートを更新

共通KPIの検討 | トップダウンアプローチ

- 本事業では、PIFのインパクトの測定・マネジメント手法（IMM）の高度化を目的として、SFGのサステナビリティ指標や静岡県の地域課題への取組に寄与するKPIの検討を行った。
- 昨年度事業にて、既存のPIFにて設定したKPIの整理による**ボトムアップアプローチ**にて検討を実施し、ネガティブインパクトの低減に関するKPIは一定程度共通指標化できたが、**ポジティブインパクトの創出に関するKPIの共通指標化が難しい**ことが明らかになった。
- そのため、本年度事業では、国際的なサステナビリティ関連指標や、静岡県の地域課題に紐づくKPIの整理による、**トップダウンアプローチでの検討**を実施した。



共通KPI候補のリスト化 | 国際的なサステナビリティ指標

- 国際的なサステナビリティ関連指標を洗い出すにあたり、各指標の特徴を踏まえて、**インパクトカテゴリの参考とする指標**と、**共通KPI案の参考とする指標**とで分けて整理を実施した。

参照した国際的なサステナビリティ指標

国際的なサステナビリティ指標	特徴	共通KPIへの落とし込み方法
UNEP FI インパクトレーダー	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 金融機関が顧客やクライアントに提供される製品やサービスを通じて、ポジティブまたはネガティブな影響を与えている可能性のあるTopicを把握するツール ✓ 重要なカテゴリについては把握可能だが、KPIレベルの具体的な指標は存在しない 	【業種横断・業種別】 インパクトカテゴリの参考とする
CSRD ESRS (2023/6/9時点案)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ TCFDやTNFD等の考え方を基に、各企業にとってマテリアルな内容を開示することを求める ✓ 「指標と目標」にて、開示すべき具体的なKPIが提示されている 	【業種横断】 共通KPI案 の参考とする
ISO26000	<ul style="list-style-type: none"> ✓ あらゆる組織に適用可能 ✓ 重要なカテゴリについては把握可能だが、KPIレベルの具体的な指標は存在しない 	【業種横断】 インパクトカテゴリの参考とする
GRIスタンダード	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 項目別スタンダードにおいて、KPIレベルの項目が提示されている 	【業種横断】 共通KPI案 の参考とする
SASBスタンダード	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 業種ごとにマテリアルなカテゴリーを示し、各カテゴリーの詳細項目について開示することを求める ✓ 開示すべきKPIレベルの項目が提示されている 	【業種別】 共通KPI案 の参考とする
FTSE	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 評価対象の企業（業種）にとって重要であるテーマを対象に評価を実施 ✓ 開示すべきKPIレベルの項目が提示されている 	【業種別】 共通KPI案 の参考とする
IRIS+	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 投資先のインパクトを評価するための共通指標として作成 ✓ 具体的なKPIが提示されている 	【業種横断・業種別】 共通KPI案の参考とする

共通KPI候補のリスト化 | 地域課題に紐づく指標

- 地域課題に紐づく指標については、自治体の方針を考慮すべく、静岡県にて作成された2025年度までの計画である「静岡県の新ビジョン後期アクションプラン」における各政策の“成果指標”及び“活動指標”を参照した。
- また、一般財団法人静岡経済研究所と連携し、これまでの各事業者との対話を踏まえて蓄積した知見に基づき、業種別の特性や課題を参照し、指標を検討した。

静岡県の新ビジョン後期アクションプラン（一部）

政策4 環境と経済が両立した社会の形成					
政策体系	指標別	指標	指標の説明 (出典、調査機関等)	現状値	目標値
4-1 脱炭素社会の構築					
成果		県内の温室効果ガス排出量削減率(2013年度比)	2018年度と比較した県内の温室効果ガス排出量の削減率(県環境政策課調査)	(2018年度) △13%	△32.6% ※1
成果		エネルギー消費量(産業+運輸+家庭+業務部門)削減率(2013年度比)	2013年度と比較した県内のエネルギー消費量(産業+運輸+家庭+業務部門)の削減率(経済産業省資源エネルギー庁 都道府県別エネルギー消費統計)	(2018年度) △6.5%	△19.4%
成果		再生可能エネルギー導入量	県内における再生可能エネルギーの導入量(経済産業省資源エネルギー庁公表資料、県エネルギー政策課調査)	(2020年度) 52.3万kl	72.7万kl
成果		県内の電力消費量に対する再生可能エネルギー等の導入率	県内の電気エネルギー消費量における再生可能エネルギー導入量の割合(経済産業省資源エネルギー庁公表資料、県エネルギー政策課調査)	(2020年度) 18.2%	26.2%
成果		森林の多面的機能を持続的に発揮させる森林整備面積	森林の多面的機能が持続的に発揮される適切な状態に保つために必要な植栽、下刈、間伐等の整備を行った森林の面積(県森林整備課調査)	(2020年度) 10,314ha	毎年度 11,490ha
※1 2030年度目標値(△46.6%)まで毎年度一定の削減率となることを想定して設定					
(1) 徹底した省エネルギー社会の実現					
活動		省エネ診断実施回数	静岡県が実施する事業所向け無料省エネ診断の実施回数(県環境政策課調査)	(2017~2020年度) 累計 260回	(2022~2025年度) 累計 280回
活動		事業所の省エネ化に関するセミナー等参加者数	静岡県が実施する省エネ化に関するセミナー等の参加者数(県環境政策課調査)	(2017~2020年度) 平均 138人	毎年度 200人
活動		住宅の省エネ化に関するセミナー等参加者数	静岡県が実施する住宅の省エネ化に関するセミナーの参加者数(県住まいづくり課調査)	(2020年度) 158人	毎年度 400人
活動		電気自動車用充電器設置数	県内の電気自動車用充電器の設置数(県エネルギー政策課調査)	(2020年度) 970基	1,200基
活動		洗滌対策実施率(箇所数)	地域の主要な洗滌箇所における洗滌対策実施箇所数の割合(県道路企画課調査)	(2020年度) 72.7%(40箇所)	100%(55箇所)
活動		緊急輸送路にある道路照明灯のLED化率(基数)	緊急輸送路にある道路照明灯のうち、LED化が完了した照明灯の割合(基数)(県道路保全課調査)	(2020年度) 17%(1,455基)	100%(8,572基)
活動		ふじのくにCOOLチャレンジ「クルボ」アクト	県、企業、団体、市町で構成するふじのくにCOOLチャレンジ実行委員会が実施する「クルボ」を通じて、県民が温室	(2020年度)	360,000回

業種別の特性・課題を基にした指標抽出イメージ

輸送用機械器具製造	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 限られた資源の有効活用が重視される → 指標：不良品率
医療・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人の命を預かる産業である → 指標：医療・介護インシデント数 ✓ 労働集約型かつ豊富な人材確保が不可欠 → 指標：外国人雇用数、アスリート採用数
建設・建築	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 建物のリユース、リノベーション需要が拡大 → 指標：改修・改装工事件数
産業廃棄	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 周辺環境への配慮が重視される業種であり、地域の理解・信頼を得ることが課題 → 指標：社外からの苦情件数

出所) 静岡県の新ビジョン後期アクションプラン

共通KPI案の抽出・検討

- インパクトカテゴリ別に整理した指標を基に、「SFGのサステナ指標との関連性」「静岡県の地域課題との関連性」「中小事業者への適用可否」を考慮して、各KPIの評価を実施した。
- 各KPIの評価を基に、共通KPIとしての妥当性について議論を実施し、共通KPI案を検討した。（→詳細はP33~36）
- 「業種横断」に加え、静岡県の産業特性や過去のPIF実施先企業の業種などを踏まえ、「**製造業**」「**医療・福祉業**」「**建設・建築業**」「**産業廃棄物処理業**」を業種別共通KPIの対象業種とした。

共通KPI案の抽出・検討イメージ

	インパクト カテゴリ	共通KPI案 (※静岡銀行管理指標)	SFG指標への 貢献	静岡県総合計画 への貢献	中小事業者への 適用可否
横断	気候	✓ GHG排出量削減率	○	○	△
		✓ 再エネ導入率（自家消費）	○	○	○
	エネルギー	✓ 再エネ発電量（売電）	○	○	○
	廃棄物	✓ 事業系一般廃棄物削減率	×	○	△
	健康・衛生	✓ ふじのくに健康づくり推進事業所数	○	○	○

苦労した点・取組のポイント

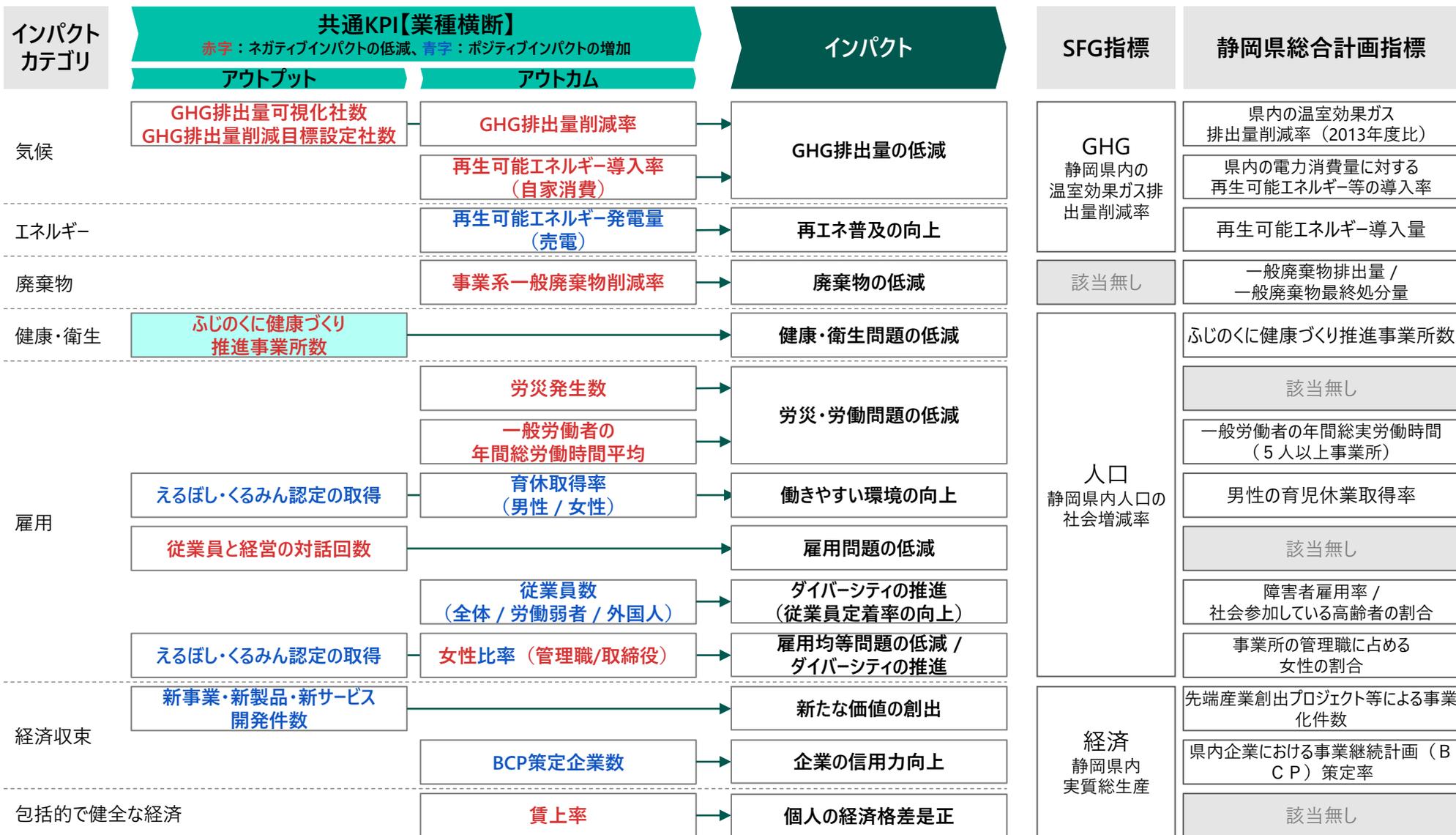
中小事業者への適用可否の考慮

- ✓ トップダウンアプローチで国際的なサステナ指標や地域課題を検討の材料としていたため、特に国際的なサステナ指標は大企業の開示を想定とした指標が多く、**この指標は中小事業者にKPIとして適用できるのか？**という点の見極めに難しさを感じました。
- ✓ ロジックモデルを活用した指標の整理と、普段PIFのKPI検討にて事業者と対話をしている一般財団法人静岡経済研究所のメンバーや事業者へのヒアリングによる**現場目線の意見を基に、指標の粒度の調整**を実施しながら検討を進めました。

ご協力いただいた ヒアリング先

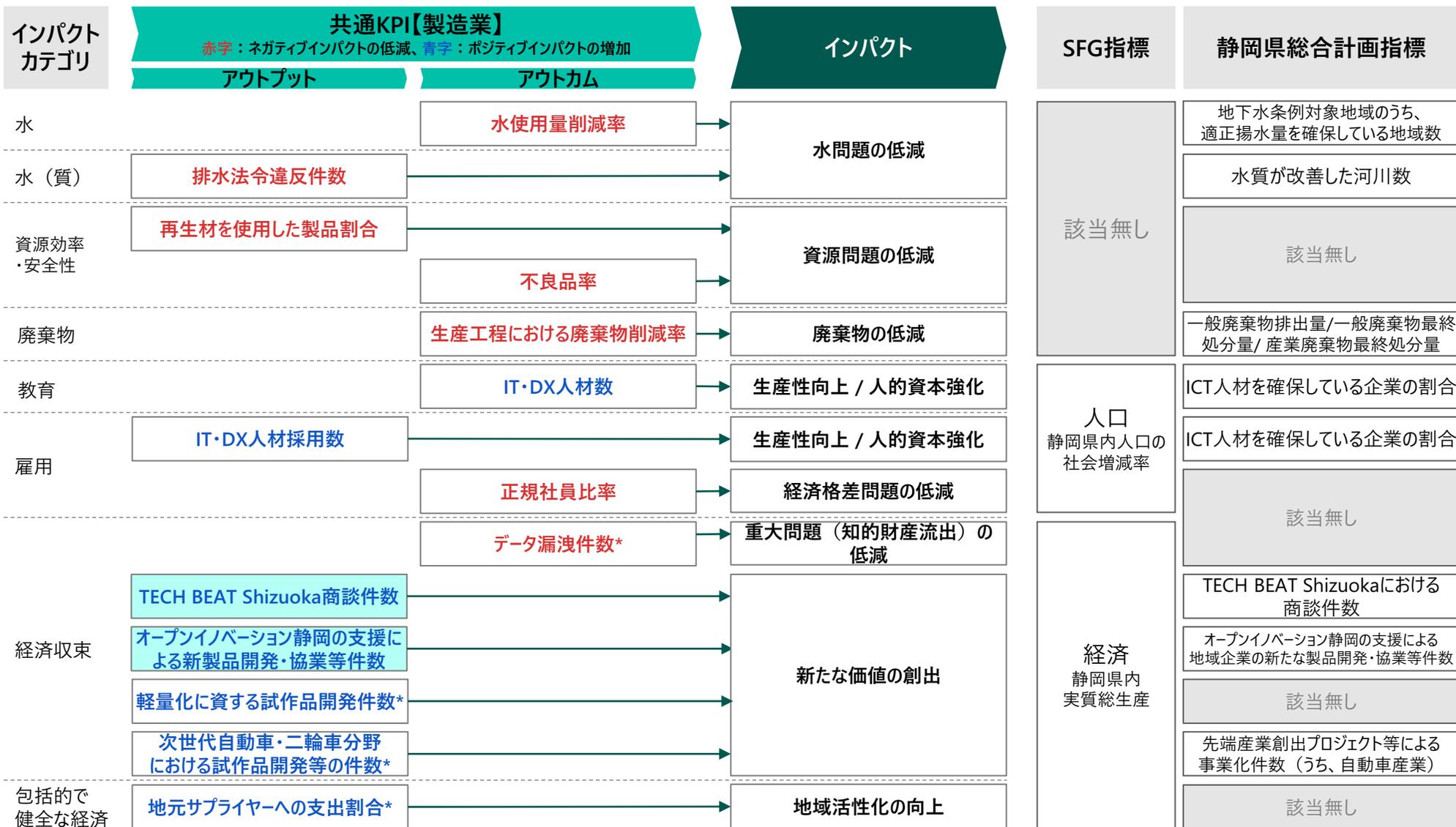
- 株式会社遠州米穀
- 社会医療法人志仁会
- 静和エンバイロメント株式会社
- 常盤工業株式会社
- 株式会社ふもとつばら
- 株式会社明光電化工業所 他

共通KPIのインパクト整理【業種横断】



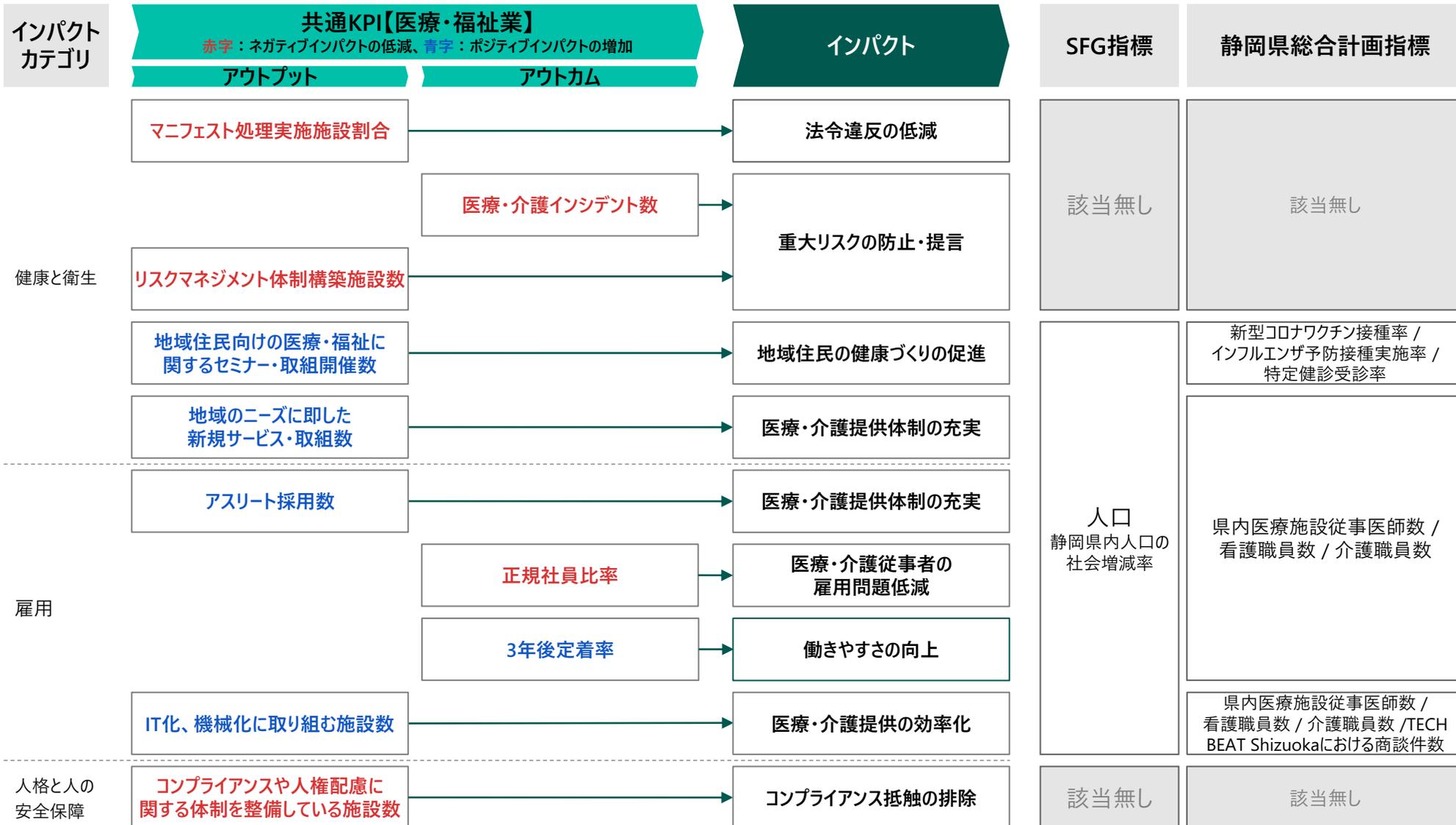
 : 静岡県独自指標

共通KPIのインパクト整理【製造業】



■ : 静岡県独自指標 * 輸送用機械製造業のみ該当

共通KPIのインパクト整理【医療・福祉業】



共通KPIのインパクト整理【建設・建築業】【産業廃棄物処理業】

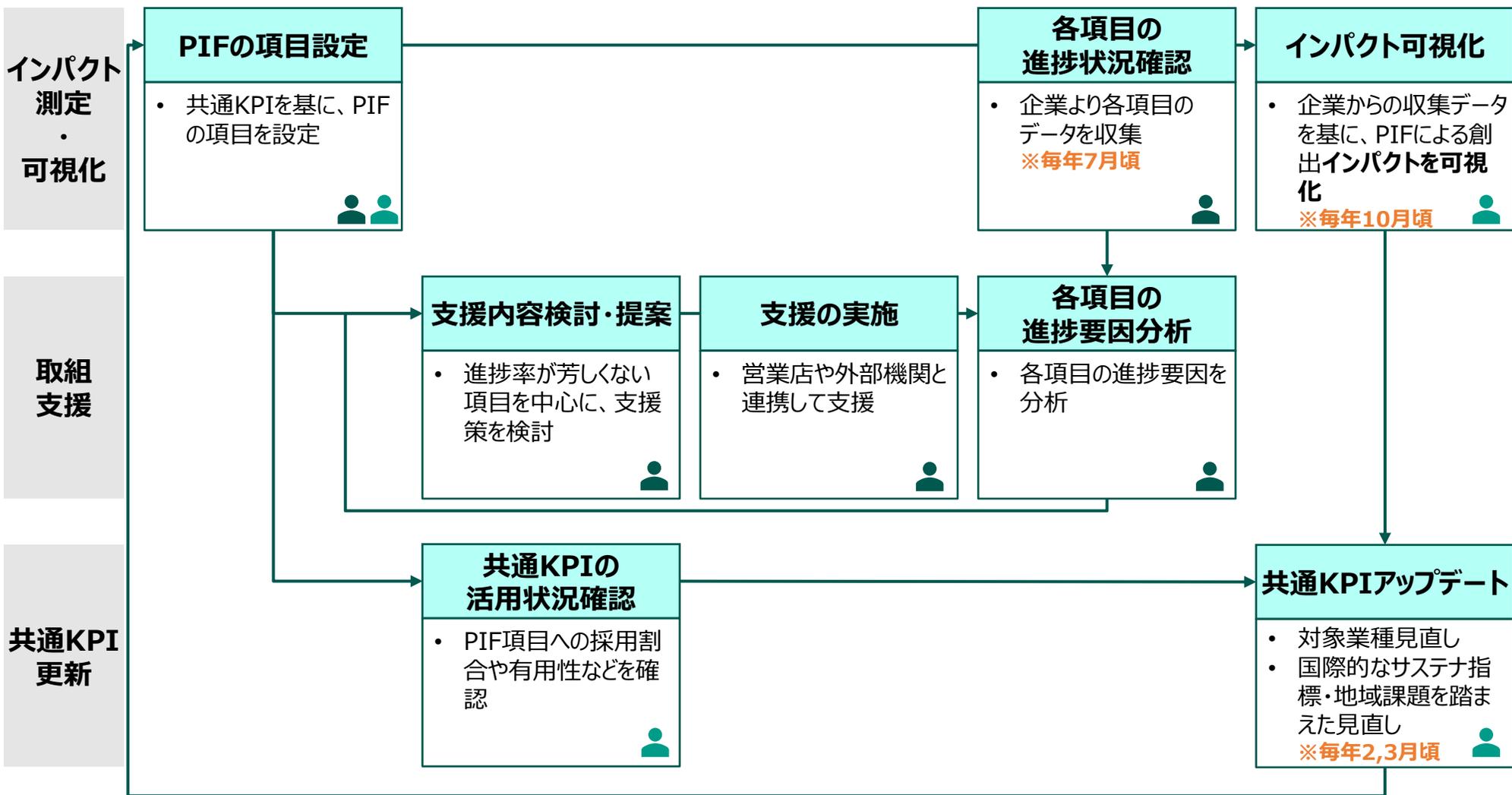
インパクト カテゴリ	共通KPI【建設・建築業】 赤字：ネガティブインパクトの低減、青字：ポジティブインパクトの増加		インパクト	SFG指標	静岡県総合計画指標
	アウトプット	アウトカム			
気候	環境経営に関する 制度参加事業者数		環境問題の低減	GHG	県内の温室効果ガス排出量削減率 (2013年度比) / 新たに環境経営に 関する制度に参加し取り組む事業者数
廃棄物		産業廃棄物リサイクル率	廃棄物処理量の低減	該当無し	産業廃棄物最終処分量
資源効率 ・ 安全性	改修・改装工事件数		資源の効率利用推進	該当無し	該当無し
インパクト カテゴリ	共通KPI【産業廃棄物処理業】 赤字：ネガティブインパクトの低減、青字：ポジティブインパクトの増加		インパクト	SFG指標	静岡県総合計画指標
	アウトプット	アウトカム			
水(質)	排水法令違反件数		水質問題の撲滅	該当無し	水質が改善した河川数
土壌		土壌保全に関する 行政指導発生件数	土壌問題の撲滅		該当無し
廃棄物	廃棄物の処理に資する技術向上、 設備管理の取組実施社数	廃棄物最終処分量削減率 (一般廃棄物/産業廃棄物)	廃棄物削減率の向上		一般廃棄物最終処分量/ 産業廃棄物最終処分量
資源効率 ・ 安全性	廃棄物の処理に資する技術向上、 設備管理の取組実施社数	廃棄物リサイクル率	廃棄物リサイクル率の向上		
経済収束		社外からの苦情件数	地域住民からの信用力向上	経済 静岡県内 実質総生産	該当無し

共通KPIの運用方法

■ PIFにて共通KPIを基にKPIを設定した後、IMM並びに各事業者への取組支援を進めていく運用方法を検討した。

共通KPIの運用方法

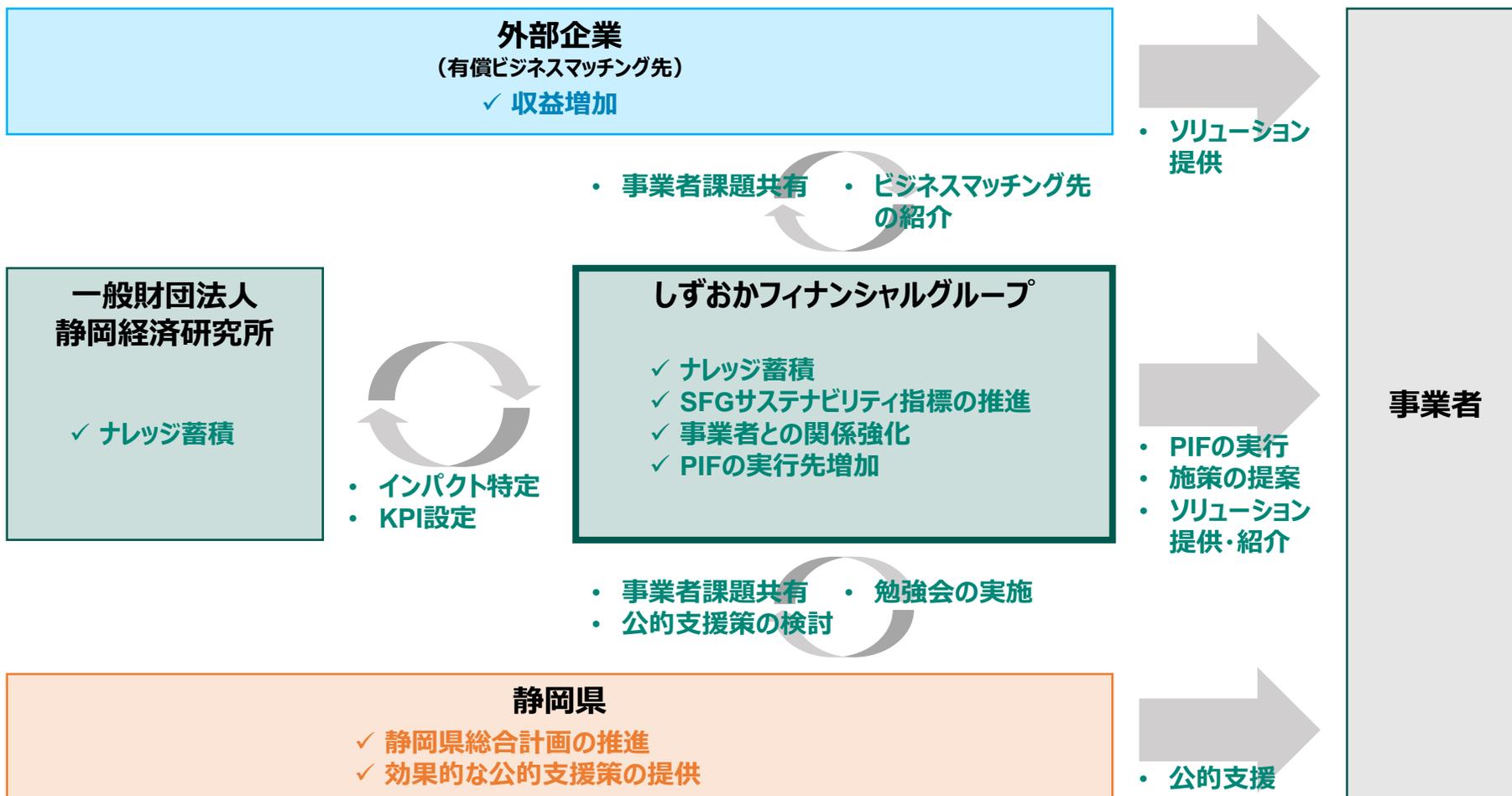
【協力先】 : 営業店職員 : 一般財団法人静岡経済研究所



事業者への取組支援体制

- 静岡県におけるネガティブインパクトの低減、ポジティブインパクトの創出を後押しすべく、一般財団法人静岡経済研究所をはじめとして、自治体や外部企業（有償ビジネスマッチング先）と連携し、事業者の共通KPIに関する取組支援を実施していく想定

事業者に対する取組支援体制イメージ図



事業性評価との連携

- 事業性評価においても共通KPIとの連携を図ることで、静岡銀行が融資を通じて環境・社会・経済に与え得る**インパクトを統一的に把握・管理**することが可能。
- そのため、事業性評価シートにて、事業者における**取組の現状・課題がどのようなインパクトに紐づくものか、改善施策を実施することでどのようなインパクトが創出されるか**を分析・記入する欄を新設。

事業性評価における共通KPIを活用した創出インパクト分析

● 取組状況分析

	ポジティブインパクト増加		ネガティブインパクト低減	
	インパクト	取組の現状/課題	インパクト	取組の現状/課題
環境	—	<ul style="list-style-type: none"> 取組：— 課題：— 	GHG排出	<ul style="list-style-type: none"> 取組：食品加工工場でのLED導入 課題：より抜本的な施策
社会	ダイバーシティ推進	<ul style="list-style-type: none"> 取組：シニア人材採用3割 課題：障がい者の採用 	—	<ul style="list-style-type: none"> 取組：— 課題：—
経済	新たな価値創出	<ul style="list-style-type: none"> 取組：地元食材を使用した商品開発5件 課題：販売網拡大 	—	<ul style="list-style-type: none"> 取組：— 課題：—

● 改善施策と創出インパクト

改善施策	KPI	創出されるインパクト
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 社用車HV化 ✓ 電動フォークリフト導入 	GHG排出量 対前年比1%以上削減	GHG排出量の低減（ネガティブインパクト低減）

- ✓ 環境・社会・経済面の**取組の現状及び課題の記入欄を新設**
- ✓ 紐づくインパクトを共通KPIにて検討したインパクトより選択

- ✓ **各KPIと紐づくインパクト**の記入欄を新設
- ✓ 紐づくインパクトを共通KPIにて検討したインパクトより選択

	共通KPI	インパクト
環境	GHG排出量削減率	GHG排出量低減
	再エネ導入率（自家消費）	GHG排出量低減
	再エネ発電量（売電）	再エネ普及の向上
	XXX	XXX
	XXX	XXX

本事業の振り返り及び委員からのアドバイス

本事業の振り返り

【分かった点・苦労した点】

- 企業のESGへの取組を評価するための基準が乱立する中、主要な国際指標や静岡県総合計画の指標を洗い出し、しずおかフィナンシャルグループが掲げるインパクト指標と関連があり、中小事業者に取組んでいただける指標を「共通KPI」として策定に取り組んできた。候補となるKPIについてお客さまにヒアリングした際、企業価値の向上はもとより、地域の持続可能性の向上に繋がる指標であることを示すことで、より「ハラオチ感」を持ち、意欲的なKPIの設定に繋がることが分かった。
- また、今回は行内関連部署との連携のもと、策定した共通KPIをPIF以外の事業性評価検証シートにも追加することで、「インパクト」という概念を更に行内に浸透させられる取組に繋がった。
- 一方、生物多様性を含めた環境問題へ取組んでいく必要があると考え、TNFDを考慮した指標の策定を試みるも、現時点において中小企業が取組むことが可能な事項を共通KPIとして策定することは限定的であり、今後さらにブラッシュアップをしていく必要があると感じた。

【今後の進め方】

- PIFはもとより、事業性評価を実施する上で、「共通KPIが企業価値と地域の持続可能性向上の両立」に繋がることをお客さまに対話を通じて伝え、意欲的に取組んでもらう。
- 生物多様性、人的資本や地域における課題といった潮流を的確に捉え、共通KPIのブラッシュアップを行うとともに、そのKPI達成に向けたソリューション提供を通じた伴走支援の実施を行っていく。

委員からのアドバイス

- 昨年度のボトムアップベースでの共通KPIの設定を踏まえ、今年度は自治体の目標等とも連動させながらトップダウンでそれを補強したことで、地域PIFの商品性の次元をワンランク引き上げました。意欲的な取組に敬意を表したいと思います。ただ、これがゴールではありません。今後は、事業性評価との本格的な融合に加え 企業価値の創出とリンクさせたインパクトKPIのあり方についても検討を深め、発信を継続していただきたいと思ひます。
- いわゆるアルファベット・スूपの問題を、自らが受け皿になることで解消し、かつ地域経済にフィットする形で提供しようという非常にレベルの高い挑戦です。特筆すべきは、この共通KPIの取組を、行内を巻き込む形で事業性評価の中に取り込んだことです。インパクト評価の発想が事業性評価に反映されたことで、行内での展開が急速に進む可能性があり、本制度でも常に議論となる「本部と現場との連携の在り方」に関する有力なソリューションといえそうです。

“

参考 | 主な参照先一覧

目的	概要	URL
国際指標の調査	UNEP FI インパクトレーダー分析ツール	https://www.unepfi.org/publications/unep-fi-impact-radar-2022/
	欧州委員会 ESRS 案 (2023/6/9)	https://ec.europa.eu/info/law/better-regulation/have-your-say/initiatives/13765-European-sustainability-reporting-standards-first-set_en
	ISO Standards Social responsibility - 7 core subjects of ISO 26000	https://www.iso.org/files/live/sites/isoorg/files/store/en/PUB100259.pdf
	GRIスタンダード	https://www.globalreporting.org/how-to-use-the-gri-standards/gri-standards-japanese-translations/
	SASB Standards	https://sasb.org/standards/
	FTSE ESGスコアデータモデル	https://www.ftserussell.com/ja/data/sustainability-and-esg-data/esg-ratings
地域課題の調査	IRIS+ An Impact Measurement & Management System by the GIIN	https://iris.thegiin.org/standards/
	静岡県 新ビジョン後期アクションプラン (令和4年3月)	https://www.pref.shizuoka.jp/_res/projects/default_project/_page_001/011/457/00_kouki-ap_tougou.pdf